

「賭け半」

記入者:寛治



夏休み企画として交換日記をはじめて、もうすぐ夏が終わりに近づいている。面白そうだから始めたけど、チャクラのメンバー以外に見るやつなんているのか?と疑問に思っていたが、意外と「日記見えますよ」と言ってもらえる。そう言ってもらえると、この企画やってよかったなと思う。認識されないと存在してないのとあまり変わらないからね。

チャクラダイナミクスの武器でもあるカケハンが誕生した時も同じような想いがあったと思う。

2018年の年明けに、ラプタの家に集まった時、このまま普通にラップやって楽しいけど、新しいことやって注目されたいよなって話になった。

たしかにチャクラダイナミクスはパワーこそあるが、そのパワーを上手く使いこなせてなかった。

ラプタ「考えてたんやけど、めちゃくちゃ遅いテンポのビートでラップするのとかどう?例えばBPM35なら140ともセッション出来るし」

※140: グライムというbpm140で構成された音楽で活動する関西のクルー

これを言われた時は、めちゃくちゃ上がった!それやー!ってなった

ラプタが前々からグライムをやりたそうにしているのはなんとなくわかっていたが、既に日本にもグライムで活躍するMCやTMがたくさんいる中、チャクラが今からグライム業界に突っ込んでくのは出遅れ感があった。

けど、いつも仲良くしてくれる140のクルー達と何か一緒にやりたいという想いからBPM140の4分の1のテンポであるBPM35の音楽にたどり着いたのである。

これなら新しい挑戦も出来るし、140達ともセッションが出来て最高の発想だった!

そして単純に、これまでにない低速のビートでラップをしたらどうなるのか楽しみで仕方なかった!

そこから新しいジャンルに確立させるため、色々な条件を追加していった結果

- ①BPM35.0である
- ②節の最初がオープンハット(またはクラッシュシンバル)で始まる
- ③キックが鳴るタイミングで他のパートは全てミュート(ボーカル除く)

上記の条件で新ジャンル音楽を世に出そうと決めた。

ちなみにこの条件の案を出したのは全てラプタである。

頭の悪い俺とヒロポジドッグはこんなこと思いつかないのだ
俺とヒロポジドッグは「いいね!!」「それ最高!」と言ってただけだったと思う。

そしてこの新ジャンルに名前を付けることになった

ラプタ「半分賭けみたいなもんやし賭け半とかどう?」

俺・ヒロポジ「いいね!!!」

そんな感じでKAKEHANが出来上がった。

そこからのチャクラは常にワクワクが止まらなかった
実際カケハンをやってみると、BPM35.0だけでなく、節の最初がオープンハットってのと、キックが鳴るとき他の音はミュートという条件が素晴らしくいい仕事をした。

雅楽のような雰囲気もあり、まさに日本オリジナルの音楽ジャンルを作り上げてしまった。恐ろしい

そして、140を迎えて曲を作ったが、狙い通りグライムとカケハンの相性は抜群だった。

もう今までの140の曲をカケハンでリミックスしてほしいぐらい!

以前ラプタが日記で、音楽制作の中、ずーっと何かに追われてる感や「～しなくてはならない」という見えない圧力があると書いていた。

それは俺もあるし、多分ヒロポジドッグも感じていると思うが、それらの圧力がカケハンが出来たことで追い風というか、フッと軽くなったように感じている。そうなると音楽制作が更に楽しくなった。

カケハンの制作は、ラプタがビートを作り、仮録りで16小節ラップしたものが俺とヒロポジドッグに送られてくる。それを聴いて俺達も歌詞を書いて1週間後に皆で本録りをするという流れで行っていた。

これは1stも2ndも同じように行い、その間にラプタはソロアルバムもリリースしている。

この制作期間が何というかクラブの合宿のような雰囲気があって凄く楽しかった。

2ndが無事リリースして、3rdアルバムに向けてまたこの期間が始まると思ってワクワクしていたが、

ヒロポジドッグは新たな仕事のため遠くに引っ越し、ラプタは難しい資格取得のためしばらくは勉強を頑張るらしい。

料理長のやましんや、ワタルの兄貴達も子供が出来て生活スタイルが変わってきている。

俺も昨年に、嫁をガチギレさせたことにより小遣いは減らされ行動制限を強いられており生活スタイルがガラッと変わったのだ。

とにかく何かしたいと思って久しぶりにビートを作ってみた。

カケハン製作中はビートも編集も全てラプタに任せっきりだったので、自分でビートを作ってみると中々うまくいかなかったが、“自分で作る”ということが非常に楽しかった。

目には見えないワクワクを持って、皆が新しい生活を頑張ってる間に、俺も今、何かを作り出せたらと考えている。